

## 救 急

救急業務は、病気やけがで苦しんでいる人のところへ救急車で向かい、観察や必要な処置を行って、症状に応じて適切な病院へ搬送する仕事です。病院前救護（救急車が必要な方を病院の医師へ引き継ぐまで）で、救命率の向上や病状悪化の防止のため活動しています。



### 救急隊 森田



救急救命士として 24 時間勤務で救急業務を行っています。病気やけがをされた方の状態を確認し、救命のために必要な処置を行いながら適切な病院へ救急車で搬送するのが主な仕事です。市民の皆さんに応急手当を知っていただくため救急教室や救命講習等も行っています。また、平成 30 年 7 月豪雨災害では安芸郡坂町に派遣され行方不明者の搜索活動も行いました。

消防の仕事は消火、救急、救助等の現場活動だけでなく火災予防や火災原因調査など多岐にわたり、人命に関わる重大な責任があります。「女性だから」と、自分で制限を設けず向上心を持って取り組めば、可能性に溢れた仕事だと思います。

## 救急隊 三浦



私は現在、救急救命士の資格を取得し、救急隊として業務にあたっています。救急隊は、救急隊員有資格者で編成されています。その中で、救急救命士有資格者は、医師の具体的な指示のもと、器具を用いた気道確保や薬剤投与など、高度な救命処置を行うことができます。資格の有無で行える処置は異なりますが、救急活動を通じて大切なことは「観察」だと思っています。どの現場においても必ず行うことで、傷病者の状態を知る上でとても重要です。必要な情報を適切に病院に伝え、病院での診療や処置に繋げることで、傷病者の今後

（予後）が変わってきます。そのために私が心がけていることは、「接遇」です。救急現場で相手にするのは人です。子どもや高齢の方は、症状をうまく伝えることが難しい場合など、同じ現場は一つとしてないため、定型的な接し方では必要な情報を得ることができません。傷病者の立場になって、何を訴えているのか、どんな処置が必要なのか、隊で協力しながら活動しています。救急業務に限らず、消防の仕事は隊で活動するため、隊員間の連携は不可欠です。出動指令を受けてから現場の確認、活動内容や搬送経路等、全てのことに共通認識を持っておかなければいけません。そのために日常業務や訓練等で、お互いの信頼を高めています。また、病態への対応も状況により変化していくため、日々の研鑽も怠ってはいけません。自己研鑽ももちろんですが、私の所属では、症例検討会や医師・指導救命士による研修会、各種訓練等を年間通じて行っており、刺激を受けながら勉強しています。「生涯勉強」救急救命士資格取得の際に教官から言われた言葉で、今でもそのことを忘れず、業務にあたっています。

救急隊は出場件数も多く、時間に追われることもありますが、現場経験を多く積むこともでき、とてもやりがいのある仕事だと感じています。

## 救急隊 前岡



二人の子育てを行いながら、勤務をしています。現在は救急隊としてけがや病気で苦しむ方のところに救急車で出場し、適切な観察や処置を行い病院へ搬送する業務、また、庶務係として職員の手当を管理・報告する事務も行います。男性が多い職場ですが、女性が居てくれて良かったと安心していただけるように、市民の皆様に寄り添えるよう心がけています。

備北消防では家族の行事、学校行事、子どもの病気や健診の際に休暇を取得しやすい職場環境をめざしており、私自身安心して子育てを行いながら業務にあたっています。自分の意識次第で、仕事もプライベートも充実できる職場だと思います。